

調査の概要

- 調査実施日
- 平成30年9月6日（木）
- 調査の目的
- ◇大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
◇市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
◇学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
◇生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- 調査内容
- ◆学力に関する調査（国語・社会・数学・理科・英語）
◆学習状況に関する調査（生徒アンケート）
- 調査参加者
- 中学3年生（本市参加者 636人）
※教科や出題範囲が限られていることから、中学生チャレンジテストにより測定できるのは学力の特定の一部です。

調査結果について

【教科別平均点・対府平均比経年比較】

全ての教科において、府全体の平均点を下回りました。大阪府平均を1とした時の本市の平均点を比較しても、全ての教科で昨年度の結果を下回りました。

【教科別得点分布・無解答率】

得点分布については、府全体の傾向よりも学力の上位層が少ないことがどの教科でも顕著でした。70点以上の生徒の割合を比較した時、特に府との差が大きかった教科は理科で、府全体が34.3%であるのに対し、本市の割合は20.1%でした。

無解答率についても、数学・理科では府が昨年度よりも改善したのに対し、本市では依然として課題です。

【観点別・設問別結果】

全ての観点・設問において府の平均よりも正答率が低い結果でした。正答率の傾向は、府とほぼ同じで、記述式問題の正答率が非常に低い結果でした。

今後に向けて

教育委員会では、調査結果を以下の取組みに生かすとともに、「摂津の学校教育スタンダード」に沿った各学校の取組みを支援します。

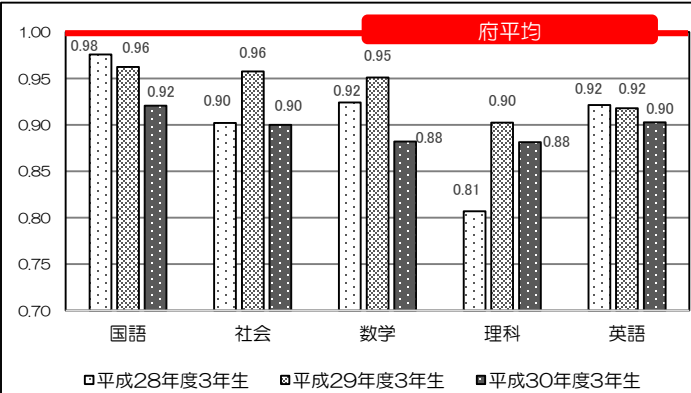
- 市全体の児童生徒の学力状況について分析し、各小中学校へ課題の周知を行うとともに、各校の「学力向上プラン」の進捗状況を確認し、指導・助言と支援を行います。
- 各学校では、結果から一人ひとりの学力の課題を見直し、指導していくことで進路保障につなげ、教育委員会では、こうした学校の取組みを支援し、学習支援のための地域人材の派遣等を行っていきます。
- 教員の授業力向上のための研修を充実させ、組織的・継続的に人材育成を行います。
- これまでの教育委員会や学校の取組みの効果検証を行い、児童生徒に確かな学力を育むため、効果のあった取組みを好事例として市内小中学校へ普及させ、よりよい教育施策を行います。

学力の定着においては、家庭での望ましい生活習慣と学習習慣を確立することが必要です。今後も、保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

教科別平均点・対府平均比経年比較

	国語	社会	数学	理科	英語
本市平均点	48.8	44.5	52.0	51.2	52.8
大阪府平均点	53.0	49.5	58.9	58.0	58.5
対府平均比	0.92	0.90	0.88	0.88	0.90

対府平均比とは、大阪府平均を1としたときの本市平均の値です。

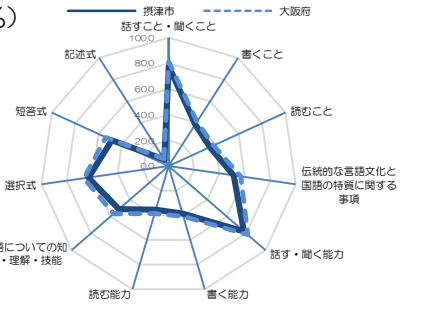
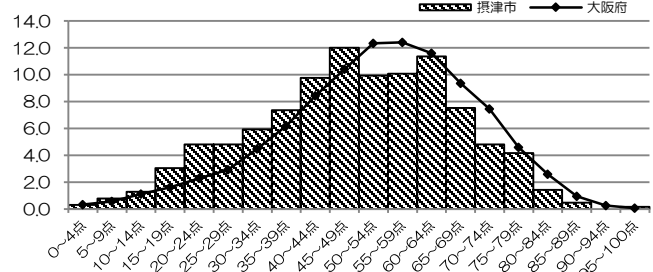


教科別得点分布・無解答率

観点別・設問別結果

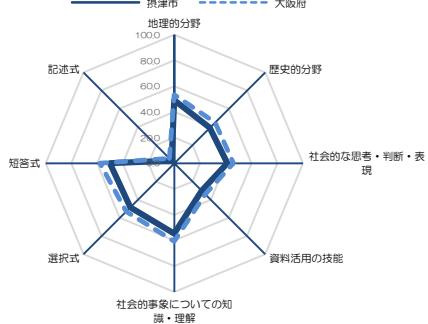
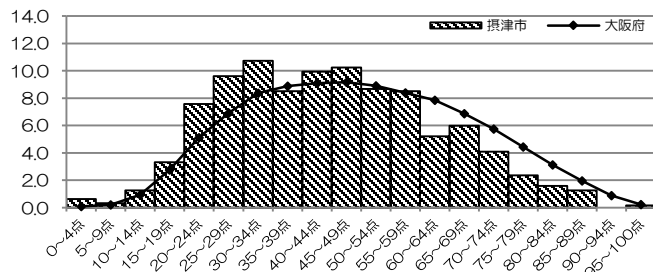
国語

無解答率 本市 18.8%（昨年9.0%） 大阪府 16.0%（昨年9.1%）



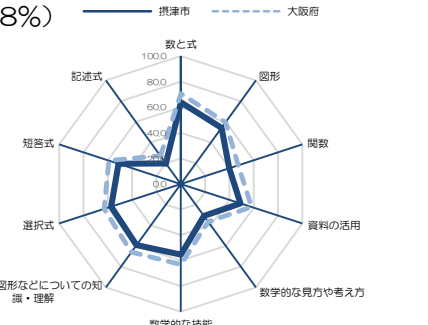
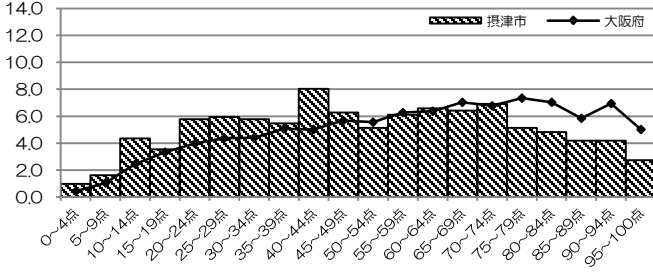
社会

無解答率 本市 6.3%（昨年3.8%） 大阪府 4.5%（昨年3.9%）



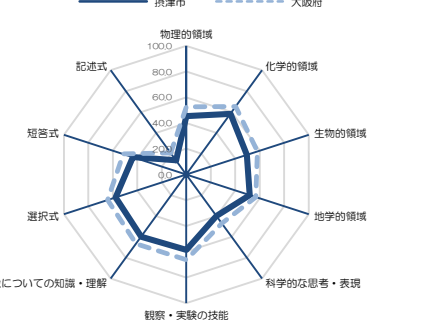
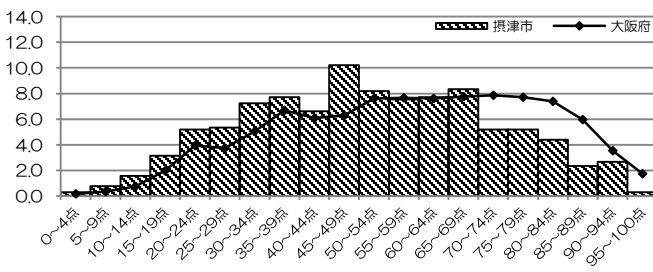
数学

無解答率 本市 13.5%（昨年12.1%） 大阪府 10.3%（昨年12.8%）



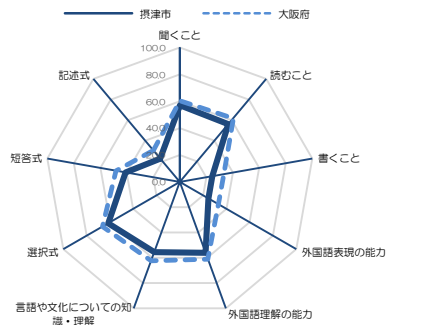
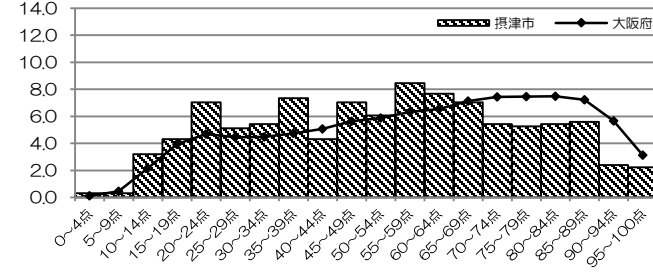
理科

無解答率 本市 10.5%（昨年9.0%） 大阪府 7.3%（昨年9.2%）



英語

無解答率 本市 4.7%（昨年6.6%） 大阪府 3.6%（昨年6.3%）



授業についての意識調査

生徒アンケートは、毎年同じ内容で各教科2問、授業についての質問項目があります。授業の内容がよくわかっているかどうか、教科の学習に主体的に取り組んでいるかどうか、尋ねています。

【授業の内容理解】

○3年生での回答状況を府平均と比較すると、「当てはまる」と回答した割合は全ての教科で低くなっています。

○1年時、2年時の回答状況と比較すると、国語、数学、理科で改善傾向が見られるのに対し、英語では学年が上がるにつれて、授業の内容がわかると回答した生徒の割合が低くなっています。

【教科の学習への主体性】

○府平均と比較すると、全ての教科において肯定的な回答の割合が低くなっています。しかし、1年時、2年時の回答状況と比較すると、学年が上がるにつれ、全ての教科で肯定的な回答の割合が高くなり、主体的に学習に取り組む生徒が増えています。

※肯定的回答の割合とは、選択肢のうちの「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した合計を表します。

今後も引き続き、このような質問項目で肯定的な回答をする生徒が増加するよう授業改善を進め、学習意欲の向上に努めます。

チャレンジテストについては、大阪府全体の調査結果とともに、「ワークブック」や「力だめしプリント」などの学習ツールが大阪府教育庁市町村教育室小中学校課のWebページに掲載されていますのでご活用ください。

力だめしプリント
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/chikarasyoukai/index.html>

ワークブック
<http://www.osaka-c.ed.jp/kate/karicen-folder/workbook-for-pref/workbook-index.htm>

ことばのちから
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/kotobanotikara/kotoba-katuyou.html>

中学生チャレンジテスト（正答例やリスニングのスクリプトもあります）
<http://www.pref.osaka.lg.jp/shochugakko/challenge/index.html>

大阪府公立高等学校入学者選抜の問題（リスニングの音源データもリンクしています）
H30
http://www.pref.osaka.lg.jp/kotogakko/gakuji-g3/h30_gakken.html

前年度までの回答との比較と今年度大阪府の結果との比較

（1年生チャレンジテストは国語・数学・英語の3教科のみ、実施されます。）

